

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年2月27日(金)

1 目指す学校像

一人一人の子どもを主語にする学校

2 今年度の学校経営の重点

主体的な学習者を育てる ～学び方の引き出しを増やす日常の授業改善～

3 今年度の経営方針

- 【学ぶ力の育成】 基礎学力を身に付け、自ら学び、創造性に富む子を育てる
- 【豊かな心の育成】 人間や自然の尊さ、美しさを愛し、心豊かで思いやりのある子を育てる
目標に向かって主体的に判断し行動する意思の強い忍耐力ある子を育てる
- 【健やかな体の育成】 自他の生命を尊重し、自ら鍛え、健康でたくましい子を育てる

4 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学 ぶ 力 の 育 成	学習ルールの定着を図るために、「拓北小学校のやくそく」等を活用しながら、指導、改善に努めた。	A	「拓北小学校のやくそく」に関しては、年度初めに限らず、年度途中でも随時指導が必要である（文具やノートの買い替えなど）。今後も指導の継続をしていく。「拓北小学校のやくそく」に関しては、毎年の変更は混乱を招くこともある。必要に応じて、部分的なアップデートをしていく。	A	A
	児童の学びの引き出しを増やしたり、主体的に学んだりするための教材研究、授業改善、環境整備に努めた。	B	次年度は児童の発達段階に応じてシンキングサイクルの重点を置く部分を検討する。また、それぞれのシンキングサイクルのステップを確認できるようにする。また、教師が主体的に学べる環境づくりをしていく。	B	B
	朝の読書の時間などを通して、児童が本に親しもうとする気持ちを育てた。	B	学年で使用する図書用の移動式ラックを購入していく。一度にすべての学年分を購入することができないため、高学年から順次購入し配置していく。委員会の企画や担任の声掛けの効果で、図書室の利用者が増加している。今後も、児童や担任の力を借りながら図書室の利用を促していくことが大切である。読み聞かせタイムは、2月に実施してみても来年度継続するか検討していきたい。	B	B
	児童にシンキングサイクルが定着するよう指導することに努めた。	B	授業参観などで学び方を学ぶ過程も保護者に見せられるとよい。教室内掲示物については、集約したものを参考に活用していく。シンキングサイクルのどこにいるのか子どもが自覚できるような関わりをこれからも継続していきたい。	A	A
	指導法を工夫し、知識・技能を身に付けさせたり、児童の思考・判断・表現の力を育ん	A	担任外の教師や学びのサポーター、他学年教諭による複数体制での指導などの取組は大きい。しかし、他学年教諭による複数	A	A

<p>だり、学ぶ力の育成に努めた。</p>	<p>体制での指導は、持続可能な取組かどうかは検討する必要がある。また、教師の発問が子どもに伝播し、自分たちで学びを深めようとする素地ができてきている。授業テンポを工夫し、授業中に習熟の時間を確保できるようにしたい。</p>		
<p>「拓北小上手なクロームブックの使い方」を活用しながら、主体的に学びを行えるよう、効果的に ICT を授業に取り入れた。</p>	<p>A</p> <p>Chromebook のルールの指導、ネットモラルの指導、著作権に関わる指導、日常的に壊さないように大切に使用する指導なども踏まえた上で、今後も学年に応じた活用、指導をしていく。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価委員会 による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果の向上のために、様々な角度から工夫されている点と、教師間の意識共有がうかがえる。(教師の取組) ・国語・算数・理科の各領域で、全国平均を下回っている領域の多いことが注意される。授業のあり方と照らし合わせて、原因の究明に努めてほしい。その一環として、授業参観後に保護者の感想を聞くなどしてはいかがか。 ・「拓北小学校『学ぶ力』育成プログラム」を検証するとともに、研究授業などを通じて、教員が相互に忌憚なく意見交換をすることが求められよう。 ・読書は、知識・教養を得るだけでなく、生きるための知恵が得られる場でもある。その習慣を身に付けるためには書物が常に手の届く範囲にある環境を整備する必要がある。そのために、「読み聞かせ」や「おはなしの会」は有意義であり、「移動式ラック」の活用も継続してほしい。 ・読書について、保護者のアンケート結果（達成度）がCなのは、家庭では他のこと（塾の宿題や外出など）に使うことになり、読書する時間がないのかもしれませんが。今後も、担任による読み聞かせタイムを続けてほしいと願います。 ・1年間を通じて参観日などに授業を見せていただく機会がありました。拓北小学校の先生方はしっかりした学級経営を基盤に、一人一人の児童の主体的な学びを育むための工夫をされていると感じました。そのための教材研究・授業改善・環境づくり…言うのは簡単かもしれませんが、膨大な時間と労力を必要としますね。すぐに結果が出るものではないでしょうが継続して取り組んでいただきたいと思います。一方では知識・技能を身に付けさせることや、思考・判断・表現の力を育むことも求められます。我々が見聞きする機会があるのは全国学力調査（6年生）の結果です。どこの地域でも全国平均よりも下回っていると聞くと心配になったりするものです。しかしその点でも、拓北小学校では、担任外の先生や学びのサポーター等による複数体制での指導も考慮しているとのことでした。『働き方改革』が言われて時間が限られている中、こうした取組をしていることは高く評価されてよいと思います。 ・読書の時間に『読み聞かせタイム』という言葉が出てきました。家庭では年齢が低いほど子どもは本を読んであげると喜びます。気に入った本は内容をちゃんと覚えているのですが「読んで！読んで！」と繰り返し同じ本を持ってきます。学校でも担任や担任外の先生・校長先生教頭先生が読んでくれたら本に触れる機会が増える子どももいるかなと思います。 ・Chromebook は入学したばかりの1年生でも上手に使えていますね。6年生が教室に来て使い方を教えてくれている様子を見るとうれしくなったりします。気になったのは学校から家庭に持ち帰るときです。通常1年生では雨の日も手が空くように傘を持たずにカップを着用していますが、ランドセルに入りきらないため手さげ袋に入れて持ち歩いている様子も見られます。つまりいて転びそうになったときなど「大丈夫かなあ～」と心配になります。 		

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
豊かな心の育成	道徳や日々の指導を通して、命の大切さについて考える力の育成や、他者の命を尊重する態度の涵養に努めた。	A	道徳や保健の授業での指導が評価につながっている。子どもの心身に係る懸念が挙げられることがある。そういった情報をキャッチした際には、学びの支援委員会ですぐさま情報共有・相談し、SC等につないで組織的に見守ることを徹底していく。	A	A
	知る・きく・引くを意識して児童や保護者、同僚とかかわり合い、いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応に努めた。	A	いじめアンケートは今後も年3回の実施を継続していき、きめ細かく実態把握をしていく。担任による聞き取りの際の学級の見守りについては、状況に応じて、可能な範囲で担任外教諭と連携しサポートする。相談室の情報については、相談室の運営リーフレットを作成したところである。適切に保護者にも共有していきたい。	A	A
	学校生活全般において、善い行いを価値付け、正しいことを進んでできる学級、学校づくりに努めた。	A	子どもの肯定的な回答が多いことを考えると、学級、学年、学校全体での取組が成果となっている。委員会をはじめ、今後も取組を広げていき、子どもたちの育ちにつなげていきたい。	A	A
	児童は、学習発表会を通して、自分の成長を感じたり、友達の頑張りを認め合ったりすることができた。	A	自己有用感の向上として、「友達を認める」「成長を実感する」姿があり、人間関係を形成する力が育った。また、共通の土台（音楽）で響き合うことで、学年を超えた尊重が生まれ、集団としてのつながりが深まった。主体的な態度の育成については、「満足いく発表にしたい」という目的意識が、自発的な協力を引き出し、子どもの大きな自信につながった。 一方、単なる活動の削減（簡素化）ではなく、学習指導要領に基づいた「交流の質の向上」を目指している意図を、より明確に保護者へ周知し、理解と共感を得る努力を継続する。また、行事での高まりを「一過性のもの」とせず、互いを認め合う「いいとこめがね」の視点を日常の学校生活や他教科へも波及させ、持続的な人間関係形成に努める。	A	A
	児童が自分から挨拶をしたり、相手のことを考えた言葉遣いや行動ができたように努めた。	A	職員の立場からよりも、児童が自分から挨拶すること、相手のことを考えた言葉遣いや行動について意識していることがアンケート結果から分かる。子どもたちが「意識している。頑張っている。」という思いを積極的に認め、今後も継続して指導に当たっていく。一方、子どもの実態に応じて、月別の挨拶目標のアップデートを検討していく。挨拶プラスワン（言葉掛け）の取組にチャレンジしている学年や学級が多い。次年度は、この取組も挨拶目標に位置づけ、全校で取り組んでいきたい。	A	A
	ふれあい活動、委員会活動、クラブ活動などの他学年との活動を通して、児童の自己肯定感・自己有用感・自己効力感が高めた。	A	ふれあい活動では、肯定的な意見が多かった。人との関わりから学ぶことが多くあると感じている。今後も、各活動での意義や目的を大切に、児童に伝えていながら活動を続けていく。	A	A

<p>学校関係者評価委員会 による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・“こども主語”の取組は特筆すべき点です。 ・「いじめアンケート」の実施など、日頃の地道な実践に敬意を表する。「学校いじめ防止基本方針」に記載されている項目は重要なものばかりである。とりわけ定例の会議を継続的に開催し、情報の共有に努めてほしい。 ・ふれあい活動を、全学年が一つのグループを作り行うのは、異学年交流に最適と思います。このような取組が更に多くなるとよいと思います。 ・いじめや不登校に対しては、未然防止・早期発見・早期対応が必要だと言われています。その点で拓北小学校はいじめに関するアンケートの実施や細かな実態把握の取組がされていて素晴らしいと思います。また、不登校児童への対策として相談支援パートナーの活用や、児童が気軽に利用できる相談室の運営など札幌市の中でも先進的な取組が行われているのも素晴らしいと思います。 ・6年生を送る会の様子を参観させていただいた時のことです。すびか学級をはじめとして各学年の児童が6年生との思い出を発表していました。どの学年の発表からも「6年生にはお世話になりました。」「6年生はすごいなあ。」という感謝やあこがれの言葉が聞かれました。ふれあい活動が定着してきた成果でしょう。
-----------------------------	---

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
健やかな体の育成	体育の学習や休み時間の指導を通して、運動習慣や体力の向上に資するための指導の充実、機会の創出に努めた。	B	鉄棒、登り棒、ケンパゾーン、グラウンドを走るトラックやチャレンジ企画など、次年度に向けて場の工夫を検討していく。外遊びが活性化することで、自然と体を動かす習慣づくりができると考える。今年度、グラウンドにドッジボールコートを複数面つくったことで、子どもは自然と友達とドッジボールなどをして遊ぶ機会が増えた。次年度も継続する。体育の学習における運動時間の増加は、授業改善の成果である。今後も継続する。	B	B
	健康的な生活行動や習慣を身に付けるための指導の充実を図った。	B	児童の肯定的な意見が増えてきており、意識の高まりは感じられる。子どもが家庭に持ち帰り、保護者と一緒に考えられるような指導内容を盛り込む事で、家庭を巻き込んだ指導に取り組んでいきたい。	B	B
	保健指導や、日々の指導を通して、自他の体を大切にする心の育成に努めた。	A	各学年工夫をして、該当教科・単元の指導をしている。こうした指導内容を、次年度の同学年にも引き継ぎ、指導の連続性を保つ。	A	A
	食に関する指導を通して、健康の大切さを理解し、望ましい食習慣を身に付けられるように努めた。	B	肯定的な回答が多く、今までの取組の成果が出ている。今後も、資料や動画を活用しての食指導を進める。	A	A
	食物アレルギーやその対応について正しく理解し、情報共有の徹底、必要な対応ができた。	A	アレルギー対応をしっかりと進めていることができている。子どもの命に関わることであるため、常に緊張感をもって次年度もあたっていく。	A	A

学校関係者評価委員会 による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携が成果を生むことへの取組が（時間が必要）特記事項に値する。 ・食の安全と安心のための知識と、クライシスマネジメントの対策が重要と史料します。 ・「給食だより」には、毎号、家庭でも役立つような多くの情報が載せられており、たいへん読みやすく親しみやすいように工夫されている。児童に知らせたい内容は、クラスで読み合わせなどしてはどうか。 ・健康や食について、家庭においても調理の体験や買い物などを通じて学べたら、親子のコミュニケーションにもなるとおもいます。 ・運動の習慣や体力の向上・健康的な生活習慣・養護教諭による保健指導・栄養教諭による食に関する指導など、多岐にわたっています。こうした学校での指導はもちろん大切ですが、同時に家庭での生活習慣も子どもには大きな影響があります。学校と家庭と地域がそれぞれの立場で子どもたちを見守り、連携を取り合うことも必要です。これからも拓北小学校の児童が毎日元気いっぱいに登下校する様子を見守りたいと思います。
---------------------	---

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
信頼される 学校の 創造	危機管理意識を高くもち、日常の児童の生活におけるリスクについて目を配り、情報共有の徹底、リスクマネジメントを心掛けた。	A	今後も、「自分の命は自分で守る」ということを子どもに身に付けさせていくことが大切である。そのうえで、引き続き多くの目で子どもを取り巻く環境に危険な箇所や状況がないか、アンテナを高く張って注視し、職員間での情報共有と即時改善に取り組んでいく。	A	A
	避難訓練等での子どもの危機回避意識の強化など、安全・安心な学校生活の充実に努めた。	A	回答結果から、多くの児童が避難の方法を身に付けていることがうかがえる。今後も事前・事後指導を大切にし、より実践的な避難訓練を継続して行っていきたい。先日の緊急地震速報において、子どもたちが適切な行動をとれていた。成果が表れている。揺れが収まった後の子どもたちの心身のケアが重要である。今後は、安心感を与える声かけや心のケアにも意識的に取り組んでいく。	A	A
	PTA や地域等と連携し、家庭に向けて子どもの交通安全意識、防犯意識を高める情報発信が図られた。	A	今年度、意識的に交通安全意識、防犯意識の高まりに資するような発信に努めてきた。今後も必要な情報は積極的に発信していく。	A	A
	学級懇談や教育相談の工夫、お便りの充実など、教育姿勢や方針を保護者に伝えるように努めた。	A	すぐる、ホームページ、各種おたよりなど、各種媒体を活用して、今後も保護者に学校の様子を積極的に伝えていく。	A	A
	幼稚園や保育園との交流、出前授業や校外学習等で、外部人材を活用することが、教育活動の充実に繋がった。	A	次年度も学年に応じて、出前授業等の活用を積極的に行い、教育活動の充実に図っていく。ただし、交通費がかかる校外学習に関しては、保護者負担の費用の問題、徴収時期の検討、交通機関の問題があるため、教育的効果と照らし合わせて慎重に検討する。	A	A
	学校経営方針と校務推進、学校評価を連動させ、PDCA サイクルにより、学校改善につなげることができた。	A	年度の中間に児童と職員に行った学校評価を通して、具体的な改善案が出され、実際に後期に取組を始めたものもある。今後も評価のみに終わらず、実際にやってみて	A	A

		よかったら続けてみる、あまりよくないようなら改善してみる、やめる、といったPDCCA サイクルを大切に学校改善をしていく。		
<p style="text-align: center;">学校関係者評価委員会 による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> • “学校は楽しいところ”、“信頼は笑顔とあいさつから”を、日頃の実践からうかがえます。 • 子どもたちが、「命の大切さ」の理解度が高まっていることは、非常によいと思います。些細なことがきっかけになることもあるので、子どもの変化を見逃すことがないように心がけてください。 • 学校評議員として1年間拓北小学校の活動の様子を見せていただきました。校長先生をはじめとして教職員の方々が一丸となって、児童が楽しく学校生活を送れるようにと心を配ってくださっていることが分かり心強く思いました。参観日を通じて普段の学習の様子もを見せていただきましたし、運動会や学習発表会などの行事やふれあい活動の様子等もを見せていただきました。同時に、そこで参観している保護者の方に接する機会もいただきました。子どもたちが楽しそうに生き生きと活動している姿を見て安心したという声をたくさん聴きました。しかし、中には学習や集団行動が苦手な児童もいます。相談室の利用を含め一人一人にきめ細かな指導をされて成果を上げてきていますが、根気強く取り組んでいくことが大切です。今後もぜひ継続して取り組んでいただきたいと思います。 			